

# カナダのソーシャル・サービス・ワーカー・ジェロントロジー・プログラムと日本の介護福祉士養成教育の比較 —オンタリオ州における老人学セミナーを通して—

中 根 淳 子  
田 中 厚 子<sup>1</sup>

## I. はじめに

### II. 田浦学長のメッセージを携えカナダ・キングストンへ

### III. カナダの gerontology と日本の介護福祉士養成教育制度の比較

## I. はじめに

2000年3月3日から3月12日の10日間、本学教員、後藤、飯盛、中根の3名は、専攻科・介護福祉専攻2回生、および専攻科・保育専攻3回生の学生13名とともに、カナダ、キングストン市にあるSt. Lawrence College (セント・ローレンス・カレッジ)において、Social Service Worker-Gerontologyのプログラムを拠点とした老人学セミナーに参加した。このセミナーの最初の発案者は当時介護福祉専攻2回生の宮本康子氏であり、St. Lawrence Collegeに赴いて細部にわたる交渉を行い、プログラム全体を実現可能にしたのは日本工業大学、工業教育研究所助教授、田中隆治氏である。またセミナーを充実したものにするためコーディネーターとして随行したのはチームアクセス研究所研究員、宮本浩朗氏とアクセス住環境研究所の田中厚子(著者の1人)である。St. Lawrence College側でセミナーの企画・運営の中心的役割を担ったのは、同カレッジ教授のMrs. Susan Chamberlainであり、また、同カレッジのBusiness and Industry Training Services and the Quality Institute, directorであるMr. Howard MillarやSt. Lawrence College BrockvilleのMrs. Joan Bradleyにはセミナーを実現するためにご尽力いただいた。セミナーの実務的な運営について

は、同カレッジスタッフのMr. Bob McCallumやMs. Wanda Williamsのお世話になった。

今回セミナーの中で、St. Lawrence College、Social Service Worker-Gerontologyの授業に参加する機会を得、また授業概要等の資料を多く提供してもらうことができたが、高齢者の介護に携わる人材を養成しているSt. Lawrence College、Social Service Worker-Gerontologyにおけるプログラムの緻密さや、実習体制が非常に整備されている事に驚愕した。セミナーにおける施設視察の際は介護用品、機器などは今や我国のほうが進んでいるのではないかと思われる点もあったが、介護に携わる人間の教育制度に関して日本はまだまだ問題が山積しているように感じた。そこで今回、St. Lawrence College、Social Service Worker-Gerontologyと、日本の介護福祉士養成課程におけるカリキュラムを比較し、今後の介護福祉士養成教育制度のありかたについて検討した。

なお、このセミナーを本学の歴史の一コマとして記録に残すため、第II章にセミナーの日程、St. Lawrence College学長、キングストン市長、本学学長のそれぞれのメッセージ、研修者代表のスピーチ、3月5日の集中講義の概要を掲載した。

<sup>1</sup>アクセス住環境研究所代表

## II. 田浦学長のメッセージを携えカナダ・キングストンへ

### 1. カナダの老人学セミナーの日程

本セミナーは以下の日程で行われた。

カナダ、オンタリオ州、キングストン

(2000年3月3日から9日)

1日目：2000年3月3日、金曜日

21:00 オタワ到着

キングストン、Holiday Innへ移動

2日目：2000年3月4日、土曜日

10:00 朝食

12:00 歓迎会、オリエンテーション、プレゼント贈呈

13:30 ホテル出発、市内案内をしてもらいながら、就職科課長ボブ・マッカラム氏宅へ

14:30 大学教職員およびマッカラム氏の近所に在住の高齢者と、カナダの家庭でカナダ式の昼食

16:30 ホテル着、キングストン市散策のための自由時間

3日目：2000年3月5日、日曜日

8:15 朝食

9:00 セミナー開始

講義：「カナダの老人学と公的政策」

10:30-11:30

休憩

11:00-12:00

講義：「高齢者のための地域サービス」

(公的サービス、施設および在宅サービスを含む)

12:00-13:30

市内レストランで各自昼食

13:30-14:00

講義：「治療的レクリエーションと高齢者」

14:00-15:00

講義：「長期ケア施設における活動とレクリエーション」

15:00-15:30

休憩

15:30-16:30

講義：「家族介護と高齢者」

16:30 自由時間

4日目：2000年3月6日、月曜日

7:00 朝食

8:00 バスでセント・ローレンス・カレッジへ

8:20 セント・ローレンス・カレッジ到着、T-200教室へ

8:30 セミナー開始、活動とレクリエーション発表

10:20-13:00

大学会議室で昼食

13:30 老人学の学生は大学正面玄関へ集合、Providence Manor (高齢者のための慈善施設)へ出発

\*各フロアーと活動の見学、デイケア見学を含む

15:00 Cataraqui ショッピングセンターで、幼稚園を見学する学生3名と合流

17:00 ホテル到着 — 自由時間

5日目：2000年3月7日、火曜日

8:00 朝食

9:30 ロビー集合

\*幼児教育の学生は保育所訪問

\*老人学の学生はHelen Henderson Care Centerへ出発(私設老人ホーム、ヒーリング・ガーデン見学を含む)

11:30 T-200教室で合流

昼食(セント・ローレンス・カレッジ学生による持寄りパーティー)

証書授与

13:30 老人学セミナー(T-200教室)

St. Mary's of the Lake 病院のEasier Living Centerへ出発(加齢による障害を持つ人々をテクノロジーがどのように手助けしているかを示す台所など)

16:15 ホテル到着 — 自由時間

6日目：2000年3月8日、水曜日

6:30 朝食

7:30 正面玄関集合。オタワへ出発

10:00 オタワ、Good Companions Centre 見学(健康な高齢者のための大規模デイケアセンター)

12:00 Les Suites Hotel チェックイン

各自昼食

14:00 正面玄関集合。国会議事堂見学

16:30 ホテル到着 — 自由時間

7日目: 2000年3月9日、木曜日

Les Suites Hotel ロビー集合

朝食

空港へ出発

## 2. 両学長及びキングストン市長のメッセージ

セミナーのスタートは滞在したホテルにおける St. Lawrence College 主催の歓迎セレモニーであった。我々はそこで St. Lawrence College の学長のみならず、囃らずもキングストン市長自らの歓迎の挨拶を受け非常に感動した。返礼としての本学学長、田浦先生のメッセージは後藤が代読した。研修者代表のメッセージは中根が作成したものを田中厚子が英訳し、スピーチは中根が行った。以下に名古屋柳城短期大学の歴史の一コマとしてそれらのメッセージをここに残すこととする。(P104～113掲載)

## 3. 講義概要

3月5日は滞在したホテル内で St. Lawrence College、Social Service Worker—Gerontology の教授や、施設の代表者による講義が終日行われた。すべて英語による講義であったが、一人一人の講師が資料やOHP、その他多くの教材を周到に準備していたこと、また田中による通訳のため理解しやすく、非常に興味深く聞くことができた。以下に3月5日に行われた集中講義の講師名及び講義概要を示す(提供資料より抜粋)。

2000年3月5日

9:00—10:30

講師 Suzanne McGurn

(Bachelor of Nursing Science)

### カナダの老人学と政策

この講義はカナダの高齢者に対する保健医療と福祉を概説する。Canada Health Act や、Pharma Care と高齢者に対する薬剤無料の特典、年金や他の生活保障制度の解説を含んでいる。長期ケア施設で高齢者がいかに大切にされているか、いかに住居やヘルスケアへのニーズが合致しているかについても学習する。認可と無認可の施設の区別と同様、公的なホームと私的ホームの区別を行う。

10:45—11:30

講師 Susan Chamberlain

(Professor, SSW-G Program)

Lynda Laird

(Graduate, SSW-G Program)

### 高齢者に対する地域サービス

この講義のための「オンタリオ州における高齢者のためのサービスの概要」という資料はすでに配布済みである。ケーススタディは日本のシステムとカナダのシステムを比較するために使用されるアプローチである。日本だったらこのようなケースにどのようにアプローチしたらよいかに関する考えを提供することが求められる。

11:30—12:00

講師 Denis Wood

(Executive Director of Alzheimer Society Kingston)

### Alzheimer Society Kingston (アルツハイマー協会 キングストン支部) の活動

この国際的な組織がキングストンにおいてどのような活動をしているかを考察する。

13:30—14:00

講師 Violet Yavanovich

(Recreation Therapist Fairmount Home)

### 高齢者に対する治療的レクリエーション

本講義はニーズがどのようにアセスメントされるか、また、クライアント中心のアプローチを用いて、ニーズに合致したプログラムがどのように作られるかを示す。

13:30—14:00

講師 Violet Yavanovich

(Recreation Therapist Fairmount Home)

### 高齢者に対する治療的レクリエーション

本講義はニーズがどのようにアセスメントされるか、また、クライアント中心のアプローチを用いて、ニーズに合致したプログラムがどのように作られるかを示す。

14:00—15:00

講師 Dawn Baldwin

(Extencicare 活動部部長)

### 長期ケア施設における活動とレクリエーション

本講義は、長期ケア施設における入所者と対比させて我々自身の余暇の好みを考えることによっ

St. Lawrence College 学長からのメッセージ

March 3, 2000

Dear Mrs. Nakane:

It is a very great pleasure and honour for me to welcome you to St. Lawrence College.

You have come a great distance in the pursuit of knowledge and understanding. It is my fervent hope that you will find both during your stay with us.

I also hope that you discover the warmth of our Canadian hospitality. As you meet people from St. Lawrence College and from our area, I hope you will find them helpful and informative.

It is my belief that learning comes through establishing relationships with others and through the interchange of ideas, experience, and, hopefully, laughter and joy.

I sincerely wish that you have a pleasant stay in Kingston and in Canada, and my best wishes for a safe and knowledge-filled trip.

Yours sincerely,



Charlie Labarge  
President



ISO 9001 Registered

2288 Parkedale  
Brockville, Ontario  
K6V 5X3  
TEL (613) 345-0660  
FAX (613) 345-2231

Windmill Point  
Cornwall, Ontario  
K6H 4Z1  
TEL (613) 933-6080  
FAX (613) 937-1523

King & Portsmouth  
Kingston, Ontario  
K7L 5A6  
TEL (613) 544-5400  
FAX (613) 545-3920

WWW.  
STLAWRENCEC.ON.CA



2000年3月3日

親愛なる〇〇さん<sup>2</sup>

あなたをST. LAWRENCE COLLEGEへお迎えすることは私にとって非常な喜びとともに名誉なことでもあります。

あなたは知識と理解を求めて大変遠方からやってきました。あなたが私たちとともに滞在する間に、その2つともを見つけられることこそ、私の非常に希望するところです。

私はまた、私たちカナダ人の暖かいホスピタリティーを見出されることを望んでいます。ST. LAWRENCE COLLEGEや、我々の地域の人々とあなたが出会ったときに、彼らがとても役立ち、知識を与えてくれることを知ることを期待しています。

学ぶことは、他の人々との人間関係の確立を通して、そして考えの交換、経験、さらに、望むべくは、笑い喜びなどを通して得られるものであるということが私の信念です。

私は、キングストンそしてカナダであなたが楽しく過ごされますことを、そして安全で多くの知識が得られる旅になりますことを心からお祈り申し上げます。

敬 具

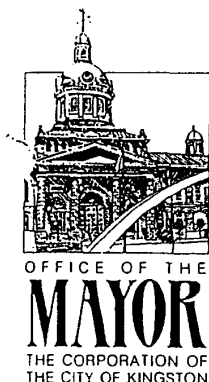
学 長

*Charlie Labarge*

(訳：中根淳子)

<sup>2</sup>〇〇さんの所には、参加者一人一人の名前が入っていて、学長のサインが手書きでなされ、参加者全員に配られたファイルに挟み込まれていた。このようなところからもホスピタリティを感じた。

キングストン市長より歓迎のメッセージ



March 4, 2000

RE: **Canadian Gerontology Seminar**  
**March 3 to March 9, 2000**

Dear Students of Ryujō College, Nagoya, Japan:

On behalf of Council and the citizens of Kingston may I extend a warm welcome to the participants attending the Canadian Gerontology Seminar in Kingston. It is my privilege to serve as Mayor of the first Capital of Canada.

To quote one of Kingston's many celebrity visitors -- "... **Kingston is one of Canada's best kept secrets**". Kingston's charm and warmth is made possible by many dedicated citizens, community groups, and merchants. Kingston possesses a small-town charm along with many "Big City" amenities. Recently, Kingston was singled out as one of Canada's top five cities for business, as well as for many other outstanding attributes. The Canadian Navy has further bestowed Kingstonians with a Class of Maritime Coastal Defense Vessels being named in our honour and our namesake Ship, HMCS Kingston, proudly patrols our waters as an international goodwill Ambassador.

Kingston's pleasant and varied climate is attracting more and more people to our area to enjoy our pristine waterfront, experience our rich heritage and to participate in the wide variety of artistic and cultural activities available. Our community has begun to embark on several exciting Millennium 2000 projects to ensure that Kingston continues to be the hallmark of a vibrant and dynamic community and to ensure prosperity for all Kingstonians into the next Century.

During your time in Kingston, I would encourage you to stop into the Visitor Welcome Centre located across from City Hall on Ontario Street (613) 548-4415. The staff on hand are extremely helpful and eager to provide you with more information on the many facets of Kingston life.

Sincerely,

Gary H. Bennett,  
Mayor

CITY HALL  
KINGSTON  
ONTARIO  
K7L 2Z3  
TEL 546-4291  
FAX 546-5133

2000年3月4日

## カナダの老人学セミナー

2000年3月3日～3月9日

親愛なる名古屋柳城短期大学短期大学の学生さんへ

キングストン市民と議会を代表して、キングストン市におけるカナダの老人学セミナーの参加者を心から歓迎いたします。カナダの最初の首都の市長として勤められることは、私の名誉でもあります。

「キングストンはカナダの秘宝のひとつである」というキングストンの多くの著名な訪問者の言葉のひとつを引用しましょう。キングストンの魅力と暖かさは多くの献身的な市民、コミュニティの団体や商業従事者により成り立っています。キングストンは多くの大都市としての空間とともに小さな町の魅力をも兼ね備えています。最近、キングストンは他の多くの顕著な特質と同様に、ビジネスではカナダのトップ5に選ばれました。カナダ海軍は、先に、我々の名誉にちなんで名づけられたHMCSキングストンという海上保安船をキングストンの市民に贈り、それは国際親善大使として、私たちの水辺を誇らしくパトロールしています。

キングストンの気持ちのよい、変化のある気候は、我々のところへ、私たちの純朴な湖岸地区を楽しむため、我々の豊かな自然環境を体験するため、そして利用できる様々な芸術や文化的活動に参加する多くの人々を引きつけています。我々のコミュニティは、キングストンが活気に満ち、ダイナミックなコミュニティであるという太鼓判を押しつづけられることを確実にし、そして、次世紀のキングストン市民すべてに繁栄を約束するため、いくつかのわくわくするミレニアム2000プロジェクトにとりかかっています。

キングストン滞在中に、オンタリオ通にあるシティホールの向かいにある訪問者歓迎センター(613-548-4415)にお立寄りください。待機しているスタッフは大変親切で熱心にキングストンでの生活の多くの側面に関する情報を準備しています。

敬 具

*Gary H. Bennett* 市長

(訳：中根・田中)

本学学長から ST. LAWRENCE COLLEGE SAINT—LAURENT 学長へ宛てたメッセージ

Nagoya Ryujo Junior College  
2-54 Meigetsucho, Showaku  
Nagoya, 466-0034, Japan

March 16, 2000

Mayor Gary H. Bennett,  
City Hall, Kingston  
Ontario, K7L 2Z3  
Canada

Dear Mayor Gary H. Bennett,

Teachers and students of our College reported me that they were very impressed by the hearty wellcome of you when they visited your City March 4. They could participate in Canadian Gerontology Seminar from March 4 to 9 and research on present situation of care works for the elderly persons in Canada. They could have most delightful and useful experiences.

I would like to express my appreciation and gratitude to you for your generous hospitality during their stay in Kingston.

Sincerely yours,

*Takeo Taura*

Takeo Taura

President

Nagoya Ryujo Junior College

(代読：後藤卓郎)



名古屋柳城短期大学  
名古屋市昭和区明月町 2-54

2000年3月1日

学長 Charles LaBarge 殿  
St. Lawrence College、キングストン校  
カナダ、キングストン市

親愛なる学長 Charles LaBarge 殿

我々の大学教員である後藤卓郎、中根淳子、飯盛茂子の各教員と、本学の介護福祉専攻科の学生を紹介いたします。

本学は1898年、カナダ聖公会の宣教師、マーガレット・ヤングによって設立されました。

上記の者は、カナダにおける高齢者の介護の現状を研修したいと望んでおります。彼らの研修への賛意と援助をいただければ幸いです。

敬 具

名古屋柳城短期大学  
学 長  
田 浦 武 雄

(訳：中根淳子)

田浦学長よりキングストン市長への返礼のメッセージ

Nagoya Ryujo Junior College  
2-54 Weigetsucho, Showaku  
Nagoya, 466-0034, Japan

March 1, 2000

President Charles LaBarge  
St. Lawrence College, Kingston Campus  
Kingston, Canada

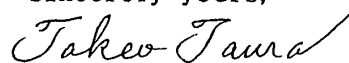
Dear President Charles LaBarge,

I would like to introduce Professor Takuro Gotoh, Professor Junko Nakane and Professor Shigeko Iimori who are teachers of our College and students of our Care Worker Specialized Course of our College.

Our College was founded by Margaret Young who was a missionary of Anglican Church of Canada in 1898.

Since they wish to study and research on the present situation of care works for the aged persons and the social welfare in Canada, it would be very kind if you would approve and assist their study and research.

Sincerely yours,



Takeo Taura

President

Nagoya Ryujo Junior College

名古屋柳城短期大学  
名古屋市昭和区明月町 2-54

2000年3月16日

市長 Gary H. Bennett 殿  
City Hall, Kingston  
Ontario, K7L 2Z3  
Canada

親愛なる市長 Gary H. Bennett 殿

3月4日にキングストン市を訪れた本学教員ならびに学生は、皆様の心からの歓迎にたいへん感動したと述べておりました。彼らは、3月4日から9日までカナダにおける老人学セミナーに参加し、貴国の高齢者介護の現状を視察することができました。彼らは非常に楽しく有意義な経験をしたことと存じます。

彼らのキングストン市滞在中に寛大なるもてなしを受けましたことを心から感謝申し上げます。

敬 具

名古屋柳城短期大学  
学 長  
田 浦 武 雄

(訳：中根・田中)

本学研修者を代表して St. Lawrence College への挨拶のスピーチ

We thank you very much for your warm hospitality extended to us today. We're pleasantly surprised that you've arranged this wonderful party for us. We really didn't expect this. We also would like to express our appreciation for all the efforts St. Lawrence College put into making this program a reality.

Ryujo College is a small 2-year college with about 400 students, located in Nagoya, Japan. Our specialty is Early Childhood Education. We also have a post-diploma program. This program is for those who already hold certificates of Early Childhood Care-Worker. The program is divided into two areas. The first is a one-year course in Gerontology, through which students can obtain a Social Service Worker certificate. The second is a two-year course, in which students can get advanced Early Childhood Care-Worker certificates when they finish.

Most of the students here with us today are recent graduates of the one-year Advanced Social Care Worker program at our college. One of them is going on to the Advanced Early Childhood Education program.

All of us here today are very eager to learn how you have been working with elderly people in your country. We are very interested in how you deal with the practical problems, including government policies and regulations, involved in taking care of senior people on an everyday basis. And, most of all, we want to visit as many related facilities as possible, to see how elderly people in this country live.

Three faculty members of Ryujo College are participating in this program. We are as eager as our students to learn about elderly care in Canada. We would like to make most of what we will learn from you, applying to our situation in Japan.

This is the first time Ryujo College has had this type of seminar abroad. We're pleased and also excited that our effort with the students to challenge new things has borne fruit in this opportunity.

We sincerely wish to further our relationship with St. Lawrence College after this particular event ends. So we would like to see the City of Kingston and our local community develop a deeper friendship in future.

Thank you very much.

(英訳：田中厚子、スピーチ：中根淳子)

本日は、私たちをあたたかく歓迎してくださり、本当にありがとうございます。このような心のこもったパーティーがありびっくりしております。また、St. ローレンスカレッジの御尽力でこのような研修旅行が実現したことを心から感謝しております。

名古屋柳城短期大学は、名古屋にあり、学生数約400名の小さな大学です。2年制で、保育者を養成している学校です。名古屋柳城短期大学にはその他に専攻科があります。保育士の資格を持ったものが1年間介護を学び、介護福祉士という資格を取るコースと、上級の保育者を目指す2年間のコースがあります。

今日ここに来ている学生は、介護福祉士の1年間の教育課程を終えたばかりの学生のほかに、上級の保育者を目指すコースのものが1名おります。それぞれが皆、老人介護の先進国であるカナダの人々の老人観や政策を学び、できる限り多くの福祉施設の見学を通してカナダの高齢者の状況を把握したいと意欲に燃えております。

名古屋柳城短期大学の教員は、私を含め3人が参加しておりますが、研修においては、学生と同様に多くを学び、それを今後の教育に生かしたいと思っております。

名古屋柳城短期大学では、海外での研修は初めてですが、学生とともに力を合わせて、新しいことにチャレンジできたことを非常にうれしく思っています。

今回の研修をきっかけに、St. Lawrence Collegeと名古屋柳城短期大学の相互交流が始まること、そして、それが将来、私たちが住んでいる地域と、キングストン市との交流に発展することを願っております。

本日は本当にありがとうございました。

(作成：中根淳子)

て、生活における余暇活動の重要性について述べる。異なる文化をもつ集団の計画立案についても、簡単に触れる。自立を助長するための福祉機器も展示される。

15:30-16:30

講師 Susan Chamberlain  
(SSW-G Program)

Lynda Laird  
(Graduate SSW-G Program)

### 家族介護と高齢者

家族は高齢者の介護において重要な役割を果たしている。本セッションは三代分析<sup>3</sup>がいかに家族ダイナミクスを理解するのに役立つかということを示す<sup>1)</sup>。(訳：中根)

## III. カナダの gerontology と日本の介護福祉士養成教育制度の比較

### 1. 人権尊重の意識が根付いている国カナダ

このセミナーで私が日本と決定的に違うと感じたのは以下の2点である。1つは、カナダは、人権尊重の国であり、国民が幼少のころからそれを自分の権利として身につけているということである。自分が尊重される権利があり、当然他の人も尊重されるべき人間であるということを個人が自然に理解しているということだ。確かに高齢者に対する差別などが皆無だというわけではない。20年以上前からすでに、カナダの多くの研究者によって、カナダの消費者向け雑誌における高齢者の出現頻度が調べられ、そこに65歳以上の人物の出現がない、あるいは非常に少ないことが報告されている。それは1990年代に入ってもあまり変わらない結果であった<sup>2)</sup>。つまり、それらの雑誌に、高齢者の姿を掲載することが好まれてはいなかったことを示している。またすべての高齢者は忘れっぽく、昔話ばかりしており、ビンゴやトランプを好むといったステレオタイプなものの考え方も多くあった。これらの根底にあるものを、Robert Betler (1977) は、ageism と命名し、「青年と中年層にある根深い不快で、年を取ることに對する個人的な嫌悪や不快感」と定義づけている<sup>3)</sup>。このような

研究結果や人口の高齢化という現実にはカナダ政府はすぐに反応し、National Advisory Council on Agingを立ち上げ、国民の加齢への理解やageismの掃蕩を助長する取り組みをしている<sup>4)</sup>。また、高齢化に関する国家的枠組みとしてのビジョン「すべての年齢層のための社会であるカナダは、福祉(well-being)を促進し、すべての生活の側面で高齢者に貢献する」を掲げ、その実現にあたって尊厳、自立、参加、公平、保障の5原則を打ち出している。これらの、国を挙げての取り組みが、個人の生きる姿勢や教育に反映している。

そして、2つ目は高齢者のactivityへの積極的な取り組みである。施設におけるactivityプログラムは目を見張るものがある。しかし、参加は強制ではなく、静かに本を読んでもよいし、好みのプログラムに参加してもよいし、自分がやりたいことがあれば施設内のSocial Service Worker(\*次項で説明)などに相談する方法もある。実際、現場の看護婦の声を聞いてみると、必ずしもすべての入所者が皆積極的にプログラムに参加しているわけではなく、面倒だと思っている人もいるということだ。Carol Bowlby (1999) は選択の機会を持たせることは高齢者の無力感や自己尊厳や意欲の改善に効果があると述べているが、まさにその選択肢を用意しているということだろう<sup>5)</sup>。さらに、オタワで見学をした健康な高齢者のためのGood Companions Activity Centreの活動も目を見張るものがあった。ジャズバンドを組んで練習に励んでいる人、ゆったりとした寝椅子に寝そべって専門家にフット・ケアをしてもらっている人、移民のため英語の習得が困難で英会話のレッスンにきている人、すてきな色合いのテディ・ベアを作っている人、そしてサンタクロースのような風貌をした老人は、木工室でお金を入れるとオルゴールが鳴るかわいい貯金箱を製作していた。日本の多くの施設で見られるような、「皆で風船バレーボール」や「皆で童謡や演歌を歌う」のも、リハビリや交流の観点からはすぐれているのかもしれないが、そこに個人の尊厳に基づいた、個人の選択があるかどうかは疑問である。

<sup>3</sup>原文はgenogram。三代にわたる家族の力動を分析すること。本講義の中では、三代ということは特に強調されておらず、高齢者とかわりのある家族の関係を分析することをさしていた。

以上の2点が強烈に印象に残ったことであった。北アメリカのアクティビティ・プログラムや日本の先進的なアクティビティ・サービスを紹介した文献はすでにあるので<sup>6)</sup>、今回は主に前者の「人権尊重」の理念が随所に生かされている St. Lawrence College の Social Service Worker—Gerontology を中心に、日本の介護教育と比較し論じていきたい。

## 2. gerontology の定義

gerontology という言葉は、psychology、sociology などに比し日本ではなじみのない言葉かもしれない。オタワでも、何をしにきたのですかと聞かれて、gerontology を勉強しにきたと答えたところ、現地の中にもわからない人がいたほどであった（発音のせいもあるかもしれないが）。医療関係者の間では geriatrics=老人医学は、よく使われるが、gerontology は、医学書院、看護英和辞典によると、「老人学、老年学」とよばれ、「老人あるいは、老年に関する学問。老化に関する基礎的研究から老人医学(geriatrics)、社会学、心理学、経済学、人口問題、哲学、宗教に至るまで広範な学際的領域にまたがる」とあり、geriatrics を包含する高齢者に関する総合的な学問であることがわかる<sup>7)</sup>。Nancy Hooyman, H. Asuman Kiyak (1999) の著書 Social Gerontology には、“The growing interest in understanding the process of aging has given rise to the multidisciplinary field of gerontology, the study of the biological, psychological, and social aspects of aging. Gerontologists include researchers and practitioners in such diverse fields as biology, medicine, nursing, dentistry, physical and occupational therapy, psychology, economics political science, and social work.”とあり、ほぼ同様の定義をしている<sup>8)</sup>。ちなみに、geriatrics については、同著において“Geriatrics is focused on how to prevent or manage the disease of aging.”と述べられていて、医学、看護学、歯科学の分野における高齢者の健康問題に主眼が置かれていることがわかる。

なお、日本では平成12年度全国大学一覧<sup>9)</sup>、および同年全国短期大学・高等専門学校一覧<sup>10)</sup>においても学科で gerontology—老人学を掲げているとこ

ろはなく、2000年9月25日現在インターネットでも日本の大学の学科としては検出されなかった。

## 3. St. Lawrence College Social Service Worker—Gerontology のプログラム

St. Lawrence College の Social Service Worker—Gerontology のプログラムは、雇用主となりうる人々による必要性のアセスメント研究を経て、1987年に始まった。この分野の専門家が構成するアドバイス委員会が設立の準備に協力した。現在の diploma 名 (Social Service Worker—Gerontology) は、新しい学科の diploma に対する州政府からの正式な認可を要請した際に、州政府が決定した。

オンタリオ州には、Gerontology のプログラムのある短期大学が7つあり、Human Studies あるいは Health Science の学部に組み込まれている。Gerontology のプログラムのある4年制大学は数校、そして大学院レベルは2、3校あり、そのほとんどが Arts and Science 学部に組み込まれている。

St. Lawrence College Social Service Worker—Gerontology は、2年課程で、総授業時間は1590時間（講義は1時間100分）である<sup>11)</sup>。授業概要を表1に示すが、日本の2年課程の介護福祉士資格取得コースの場合、必修のみで1650時間であるので、時間数からいうと St. Lawrence College Social Service Worker—Gerontology のほうが、若干の余裕があると思われる（表2）。研修旅行に参加した学生は St. Lawrence College Social Service Worker—Gerontology において3回授業に出席し、ケース・スタディの発表をしたり、学生のディベートに対して意見や感想を述べたりした。見学した授業はすべて学生自らが教材を使って発表する形式やディベートで、授業に参加するには事前の準備に非常に多くの時間を費やさなければならない。そのため時間に余裕が必要なのだろう。日本のような教師側からの一方通行の授業のみでは知識や技術が習得しにくいのは当然であろう。

本学介護福祉専攻科の学生には気の毒なことをしたが、St. Lawrence College を見習って2000年度の介護概論で、清潔という1単元に3時間（3コマ、通常は最大でも1時間しか割けない）を使わせてもらい、カナダ風の授業を行った。アメリカ

表1. St. Lawrence College Social Service Worker -Gerontologyにおける授業科目と、日本の介護福祉士養成課程の授業科目の対比

学 期	科 目	時 間	日本の介護福祉士養成課程と呼応する教科
I	基礎コミュニケーション技術	45	社会福祉援助技術の一部
	老人学入門	60	老人福祉論・介護概論・医学一般など
	対人関係技術	30	社会福祉援助技術の一部
	心理学入門	45	
	家族社会学	30	
	コンピューターリテラシー	15	
	一般教養選択	45	
II	活動とレクリエーション	60	レクリエーション活動援助法の一部
	現場体験	90	
	ソーシャル・サービスのための臨床記録	45	実習指導の一部
	加齢の身体的側面	60	医学一般の一部
	地域資源	30	地域福祉研究の一部
	面接・カウンセリング入門	45	社会福祉援助技術の一部
	トータル・クウォリティ・マネジメント	45	介護概論・介護技術の一部
III	実習	360	実習
	実習セミナー	30	実習指導の一部
	抑うつと痴呆	30	医学一般の一部
	高齢者における薬物使用と誤用	30	医学一般・介護技術の一部
	高齢者とのカウンセリング技術	45	社会福祉援助技術の一部
	ボランティア・コーディネート	27	
IV	履歴書の書き方と求職技術	27	
	実習	240	実習
	実習セミナー	18	実習指導の一部
	家族の作用（老人学）	36	老人福祉論・介護概論の一部
	特殊な問題（老人学）	36	介護概論の一部
	一般教養科目選択	45	
		1590	

カの gerontological nursing のテキストを用いて皮膚の解剖生理を自分たちで訳し理解しながら、そこからどのような介護が考えられるかを発表させた<sup>12)</sup>。学生は、英語（専門用語が多い）、視聴覚機器、パソコンなどに青くなっていたが、発表の時にはごく自然にOHCで皮膚の解剖図をズームしながら、大型パソコンモニターで自ら入力した図表を説明していた。事後の学生の感想では、自分で勉強したので頭によく入った、充実感があつた、集中でき、記憶に残りやすい、などが得られた。私自身も、学生には積極性、問題解決能力、リーダーシップ、集中力など様々な力があると実感した。ただ、このような授業を展開するに

は準備にも多くの時間を費やし、学生にも多くの時間を与えなければならぬために、少人数であることが必須条件となってくる。本学学生に当てはまるのは人数だけで、時間の点からいうと、取り入れにくいのが現実である。学内の教員が授業内容について綿密な打ち合わせをし、できる限り多くこのような授業形態を取り入れていくべきであろう。それによって学生を尊重した、学生主体の授業が可能になるのではないだろうか。

#### 4. Social Service Worker (SSW) とは

St. Lawrence Collegeにおけるgerontology専攻は、Human Studies（人間学科）に所属し、表1



表2. 介護福祉士養成カリキュラム(2年課程・保育士資格+1年過程・本学)

区分	科目	厚生省2年課程 (新カリキュラム)	厚生省1年課程 (新カリキュラム) 保育士+1年	名古屋柳城短期大学 専攻科・介護福祉専攻 時間数
一般教養 科目	人文科学系、社会科学系、自然科学系、外国語または保健体育のうちから4科目	120		
専門科目	社会福祉概論(講義)	60		
	老人福祉論(講義)	60	60	60
	障害者福祉論(講義)	30		
	リハビリテーション論(講義)	30	30	30
	社会福祉援助技術(講義)	30		
	社会福祉援助技術演習(演習)	30		
	レクリエーション活動援助法(演習)	60		30**
	老人・障害者の心理(講義)	60	30	30
	家政学概論(講義)	60	30	30
	家政学実習(実習)	90	90	90
	医学一般(講義)	90		
	精神保健(講義)	30		60(卒業必修)
	介護概論(講義)	60	60	60
	介護技術(演習)	150	120	120
	形態別介護技術(演習)	150	120	120
	介護実習(実習)*	450	360	360
実習指導(演習)	90	30	30	
	終了研究演習			30(卒業必修)
	キリスト教倫理			30(選択)
	地域福祉研究			30(選択)
	総時間数	1650	930	(全部選択した場合) 1110

\*訪問介護実習を時間数の規定なしで含む

\*\*福祉レクリエーション論として選択

の様なカリキュラム構成になっている。この専攻の目的は高齢者の心理社会的ニーズの理解に焦点を当てた老人学教育を提供する事にある<sup>13)</sup>。このコースを専攻することによって Social Service Worker-Gerontology の Diploma (卒業証書) を取得することができる。このコースは、主に高齢者のための福祉施設や地域の老人プログラムのアクティビティ部門で働くための教育を主眼としている。

Social Service Worker (以後文中では SSW と表記する) とは、自立した生活を目指す高齢者クライアントの支援や、施設ケアを受けている高齢者の QOL を改善するための知識や技術を身に付けた高齢者援助チームの一員で、activity の援助と、ソーシャル・ワークが主要な職務である。

SSW として働くためには、短期大学の SSW の diploma か、SSW-Gerontology の diploma を取得しなければならない。4年制大学の卒業者は該当しない。SSW の diploma は、特に老人に限らず全ての年齢層に対する一般的なソーシャル・ワークのためのコースでオンタリオ州の多くの短期大学に存在する。

SSW と SW (Social Worker) という二つのタイトルは同じ分野をカバーするが、SSW は、4年制大学で BSW (Bachelor of Social Work) あるいは M.S.W. (Master of Social Work) として教育を受けた SW よりも職場における構造の中で下に位置する。SSW はカウンセリングを担当し、SW はケース・マネジメントを担当するといった職業分担がなされていることが多い。

SSWは現在のところ、日本の介護福祉士のよう  
な国家資格制度にはなっていないが、昨年オンタ  
リオ州で、この職業を規定し、特にSWとSSWの  
タイトルの正式な使用をコントロールする Social  
Workに関する法律制定がなされた。SWやSSWの  
タイトルを使う人は全員Ontario College of Social  
Work and Social Service Workersに登録しなけ  
ればならなくなった。現在、St. Lawrence College  
の卒業生の大半は、アクティビティ・コーデ  
イナーやプログラム・コーディネーター、ある  
いはシニア・アウトリーチ・ワーカーと呼ばれる、  
SSW のタイトルをつかわない仕事に就業してい  
るが、この新しい法律により将来的にはSSWのタ  
イトルがより適切に使われるようになるといわれ  
ている。

SSWと日本の介護福祉士の違いは、SSWは、援  
助のアレンジや、高齢者のニーズに合せた活動の  
プログラミングが主な職務で、身体介護や家事援  
助は行わない。それに比べ、日本の介護福祉士は、  
昭和62年にできた介護福祉士法によると「第42条  
第1項の登録を受け、介護福祉士の名称を用い  
て、専門的知識及び技術を持って、身体上または  
精神上の障害がある事により日常生活を営むのに  
支障があるものにつき入浴・排せつ・食事その他  
の介護を行い、ならびにそのもの及びその介護者  
に対して介護に関する指導を行うことを業とする  
ものをいう。」とあり、日常生活援助が主な職務  
であるが、実際は、利用者を全人的にとらえ、ケア  
・プランを実行するだけでなく、評価もしなければ  
ならない。また、活動のプログラミングから実践・  
評価、関連職種との連絡、家族に対する精神的援  
助や指導、救急時の対処などスーパーマン的な業  
務を要求される。カナダの施設においては、activity  
に関してはSSWなどの専門家が主となり（治療  
的な側面からは作業療法士、理学療法士など）、ケ  
ア・プランはregistered nurseが立案し、介護を  
実施するのはpractical nurseや6ヶ月で資格が取  
れるpersonal support worker (PSW)である（日  
本のヘルパーとほぼ同等）。たとえば排泄の援助  
を直接行うのはPSWが主で、排泄物の異常や皮膚  
の発赤などがある場合はすぐにpractical nurse  
や、registered nurseに報告する。registered  
nurseは、直ちにケア・プランを変更する、という

システムである。日本の介護福祉士はカナダの  
nurse・PSW・SSWをあわせたような存在である。  
(\*日本の施設では、寮母という介護福祉士の資格  
を持たないスタッフも多く働いているが、カナダ  
のようなピラミッド型のシステムではなく、資格  
の有無に関わらず同じ業務をしているところがほ  
とんどである。このシステムは一見平等に見える  
が、経験は豊かでも資格のないスタッフと介護福  
祉士との心理的な軋轢があったり、利用者に関し  
てスタッフ一人一人が何もかもをしなくてはなら  
ないという欠陥があり、結果的には、過重労働と  
なり、ひどい場合には燃え尽き症候群に陥った  
り、逆に、利用者の虐待につながる危険性さえあ  
る<sup>14)</sup>。)

#### 5. St. Lawrence College Social Service Worker— Gerontology と日本の介護福祉士養成課程に おける授業内容の比較

前述したような職務内容の違いはあるが、高齢  
者の介護に関わる職業人の養成という点からみる  
と日本の介護福祉士養成課程と St. Lawrence Col  
lege Social Service Worker—Gerontologyは類似性  
があり、その授業内容を比較してみたいと思う。

##### ①解剖学・生理学・薬理的な知識

日本の介護福祉士養成のカリキュラムは2000  
年度に変更したばかりである。介護保険制度に関  
する内容の強化、援助関係形成のためのコミュニ  
ケーションの強化、居宅介護支援に関する知識の  
強化・実践、介護過程展開方法の追加などが変更  
のねらいとなっている。しかし、この教育内容で、  
十分に介護福祉士として機能ができるかという  
と、実際は不十分な点も多い。それは前述したよ  
うに介護福祉士が1人で多くの役割を果たしてい  
る事に起因する。介護福祉士は福祉職であるが、  
その役割の中心は、食事、排泄、入浴などの日常  
生活の援助である。介護福祉士という資格ができ  
る以前は、医療機関でその役割を果たしていたの  
は看護婦であった。ところが、世界で類を見ない  
速いスピードで高齢化が進み、看護婦と同様に日  
常生活援助ができ、福祉や家政学の知識・技術を  
合わせ持つ職種として生まれたのが介護福祉士で  
ある。看護婦は医療職なので、例えば、食事の援  
助をするときも、そのベースとして、解剖学、生

理学、生化学、栄養学、内科学、外科学などがあり、さらにそれらを包含した成人看護学、老人看護学などの知識を応用している。ところが、たとえば施設内では、解剖学、生理学を十分学ぶ機会を与えられなかった介護福祉士や寮母などが危険を感じつつも嚙下力の弱い高齢者の食事介助をしている現状が非常に多くある。表2を見てわかるように本学は医学一般を卒業必修として位置付けているが、新カリキュラム・保育士+1年過程は必修ですらない。St. Lawrence CollegeはSocial Service Workerの養成のため、実際に身体介護をすることはないにもかかわらず、老人学という学際的学問の主旨を生かして、「加齢の身体的側面」に60時間も費やしている(表1)。また、「高齢者における薬物使用と誤用」は30時間も取っている。ところが日本は薬物療法への援助は、強いていえば、介護技術や、医学一般の中で数時間行われるだけである(表2)。高齢者は有訴者率や、受療率が高く、生活習慣病などのために薬物を服用していることが多い。実際に施設において、誤用や、のみ忘れがないよう配慮したり、服用時の援助をしたり、在宅の利用者の家族に指導をしたりするのも介護福祉士の役割である。具体例を言うと、目薬でも十分な知識を持っていないと、利用者に「うまくさせないのでやってください。すっきりするから両方さして」などといわれた時に、深く考えずに片方の目に処方されている目薬を両方点眼してしまうことも起こりうる。昨今、看護婦の医療過誤が数多く報道されているが、介護福祉士もこのような事故を未然に防ぐために、今後は医学的な知識を養成の段階で強化する必要があるだろう。

## ②コミュニケーション技術

次に、St. Lawrence College Social Service Worker—Gerontologyで特徴的なのは、コミュニケーション技術に力を入れていることである。「基礎コミュニケーション技術」「対人関係技術」「面接・カウンセリング入門」「高齢者とのカウンセリング技術」を合計すると165時間でコミュニケーション関連の科目だけで、実習も含めた総時間数の約15%近くも占めている(表1)。人間関係の中で行われる職業である以上、コミュニケーションを学ぶことは重要である。日本では社会福

祉援助技術・社会福祉援助技術演習や、介護概論・介護技術の1部がこれをカバーしているが、十分とはいえない。そのため、「カウンセリング」30時間を選択科目として強化している学校もある。ところが本学は1年課程のため、社会福祉援助技術は保育士資格を取得した際に履修済みであることを前提としているので、コミュニケーションや、カウンセリング技術などの独立した科目は皆無である(表2)。さらに悪い事には、保育士資格をとってから、かなり長い年月を経た後に入学する学生も多いため以前に習ったことは忘れていた場合もある。

St. Lawrence College Social Service Worker—Gerontologyの入学案内には、「必要な資質」として「このプログラムにおいては、あなたが効果的にコミュニケーションできることや、人々と強力な関係を築いていけることが重要です。十分な話す能力や書く能力は不可欠です。高齢者クライアントに対面しているときにプレッシャーや心配を感じても、相手に共感を持ちポジティブな態度で接することが大切です。その他の望ましい資質は、他人のニーズや興味に焦点付けられるための成熟性、個人やグループの差の容認、情動的な問題から自分を切り離せること、ストレスに効果的に対処できること、期限を守ること、チームの一員として働く能力のあることなどです」と明言している<sup>15)</sup>。また入学後の実習評価でも、対人関係技術・行動は、表3のように11項目にわたって細かく評価される<sup>16)</sup>。このような姿勢は、オンタリオのSocial Service Workerのみではなく、わが国の介護福祉士にもそのまま必要な資質であろう。本学にも、実習で利用者といよコミュニケーションが取れるのだろうか不安を感じる学生が毎年いる。教科を増やすことは決してよいことではないが、可能な限り選択という形や、本学の場合は保育科の授業を科目等履修などの形で再履修できるよう便宜を図っていくべきだろう。学生自身が人間として成長し、他者とよいかかわりを持つような教育システムが必要である。

## ③活動とレクリエーション

利用者の活動を考えることは、可能な限りの機能の改善や、機能低下の予防、残存能力の活用のため不可欠である<sup>17)</sup>。私自身も前述したようにカ

表 3. SOCIAL SERVICE WORKER—GERONTOLOGY FIELD PLACEMENT ELIGIBILITY CHECKLIST の一部を抜粋

	Circle One	Comments
6. Interpersonal Skill/Behavior		
i) invites others to interact	Yes No	
ii) initiates contact with others	Yes No	
iii) spontaneously shares self	Yes No	
iv) self discloses appropriately	Yes No	
v) actively listens, shows interest in others	Yes No	
vi) shows positive regard for others	Yes No	
vii) demonstrates empathy	Yes No	
viii) attempts constructive conflict resolution	Yes No	
ix) verbal & non-verbal communication are congruent	Yes No	
x) works as team member	Yes No	
xi) respect rights of others	Yes No	

ナダの高齢者の活動への取り組みに目を見張った。しかし日本の介護福祉士は先に述べたように身体介護だけではなく、家事援助、家族の指導や利用者の活動への援助も行わなくてはならず、スーパーマン的な存在である。この現状では、施設などでは寝たきりを予防するため、日常生活援助の中で最大限の活動化を考えていくことが精一杯で、積極的に利用者のレクリエーション活動を計画し評価していくには多大な努力を要する（実施しているところも多いが）。この現状では利用者個人のニーズに合わせた取り組みは難しいのではないだろうか。新カリキュラムの中では従来レクリエーション指導法という名称だったものがレクリエーション活動援助法として2年過程では60時間を取っているが、あくまでも私自身の意見としては日本でも今後はオンタリオのSSWのように介護職と兼任ではなく専門的に活動のプログラミングができる職種が必要になってくると思う。そういう意味からは、将来的にはこの科目の時間数は据え置きか、専門職種に主導権を譲り、むしろ減ってもよいだろう。逆に、アクティビティをもっと専門的な目でとらえるために、時間数を増加させ、介護福祉士とは別の資格を付与することもよいだろう。日本では現在、日本レクリエーション協会が認定しているレクリエーション・インストラクターや福祉レクリエーション・ワーカー、あるいはアクティビティ・サービス研究協議会認定のアクティビティ・ワーカーという名称の専門家がいる。いずれも国家資格ではないが、これらの認定資格を介護福祉士の資格と同時

に取得できる学校もできはじめている。しかし現状は、介護保険が導入され、どこの施設も財政的には厳しい状況にあり、activityや、レクリエーションの専門家を単独の職種として雇用できる場所は少なく、これらの人間にとって不可欠なサービスは、介護福祉士や他のスタッフの情熱によって支えられているのが現状である。まだ相当な期間は、介護福祉士養成施設において関連の教科を充実させていく必要がある。（本学は表2のように選択科目として強化に努めている）

#### ④ Special Issues 特殊な問題—老人学

表1のSt. Lawrence College SSW—Gerontologyのプログラムを見ると、「特殊な問題—老人学(36時間)」という科目がある。これは第4学期に配され、内容は、加齢に関連する最近のトピックスについての問題意識を喚起し、徹底的に学習することを目的としている。トピックスとしては、高齢者の虐待、女性に関する問題、性の問題、死生観、多文化主義、宗教の問題などが含まれている。このようなトピックスに関しては、講義スタイルの授業よりも、自分で調べて発表したり、調べた上でディベートをしたりするほうが、当然目的を達成しやすいだろう。St. Lawrence Collegeで実際に見学した授業の中のディベートでも学生はかなり数多くの文献を引用していたのに驚かされた。本学の学生に関していえば、新聞も読まず、テレビもニュースは見ない、インターネットはわからない、という学生も多い。これでは、今、世の中で何が問題となっているかを自分でキャッチする力はないと言っても過言ではない。2年過程

の総まとめとして、このようなスタイルの学習をすることは非常に意義があり、この学習を通してさらに問題意識を高めることができるように感じられる。本学では1年間の総まとめとして、終了研究演習(30時間)をしており、それなりの成果は上げていると思われるが、年間360時間もの実習をこなしながらの研究活動は、学生にとっては負担が大きく、内容も格差が大きいのが実情である。St. Lawrence Collegeのように、トピックスを学生に提示させ、それについて自ら徹底的に学習させるのもよいのではないだろうか。問題意識や人権を守る意識を育てるよい機会になるのではないかと思う。

#### ⑤実習

実習は日本では2年過程は450時間、1年過程は360時間であり、St. Lawrence College Social Service Worker—Gerontologyでは2学期に現場体験という形で90時間、3学期・4学期にそれぞれ360時間、240時間を経験する。3・4学期の実習は実習セミナーと対になっており、30時間、18時間、実習関連の討論のための時間がある。いずれの実習も、長期ケア施設(long-term care facility:日本の介護老人福祉施設とほぼ同じ)か、地域において行われる。

実習において多くの日本の実情と異なるのは、St. Lawrence Collegeの場合、学生本位で、学生のために実習受け入れの施設と学校が一体となって教育にあたることである。先に述べたように日本の現状では、実習指導者も非常に多忙で、十分学生指導の時間が持てないことや、学生も遠慮がちでわからないことがあってもなかなか聞けないという問題もしばしば発生している。St. Lawrence Collegeの実習要項は、実習目的や、段階別の目標や、注意事項、実習評価などについて述べられ、本学のものとは構成は変わらない。(本学の実習要項はかなり充実したものである)しかし、大きく異なる点は、student-field supervisor interviewという項目があり、その目的が明示されていることである<sup>18)</sup>。その目的を簡潔にまとめると、a) supervisorが、その施設において実習することにより学生が利益を得ることができるか、また学生のニーズを受け入れることができるか判断する b) 施設が学生の学習目標達成のための助力をしてくれそ

うか学生自身が判断する c) 面接を通して学生が情報を得る、という3点が面接の大きな目的で、非常に学生の立場に立ったものとなっている。また、実習においてsupervisorがassignment(担当・役割を決める)をするときも学生個々の理念や、過去の実習経験、習得している技術、観察やコミュニケーションの能力などをアセスメントしてから行うよう明示されている。さらに、role of supervisor (supervisorの役割)、supervision、field placement evaluation(実習評価)などについて細かな項目が掲げられている。中でも特記すべきは、週に1時間を学生個人のsupervisionに当てること、supervisionの中では目標への到達度や進度をdiscussionすること、supervisorは実習の早い時期に学生の心配事や問題点を把握すること、supervisorは学生に対し実習中に建設的なフィードバックをすること、評価に関しては学校と実習場のsupervisorがevaluation meeting(評価会議)を開くことなどである。わが国では何か根底から覆すような改革をしないとこのような恵まれた環境に学生を置くことは不可能だろう。自分の業務だけでも十分多忙な実習指導者が後輩の育成にひたすら情熱を傾けてあたっているのがわが国の現状である。しかし情熱ばかりに頼る事はおのずと限界がある。やはり、実習指導者に指導の時間を与え、そのための報酬をきちんと整えなければよい介護福祉士は育たない。学生の人権を大切にし、学生を育てる指導者を大切にしないと、高齢者の人権を大切にする意識をしっかりともった介護福祉士が育たないのは当然であろう。

以上何点かを、St. Lawrence College Social Service Worker—Gerontologyと日本や、本学の授業や実習において比較した。カナダは人権を守る国であり、物事の発想がすべてそこから発生しているように思える。人間を大切にする国で、人間を大切にする教育を受け、人間を大切にするSocial Service Workerが育つ。世界に類を見ないスピードで高齢化が進んだわが国では、高齢者の介護をするマンパワーの教育がその後を追いかけている形になっている。そのため現状に教育を妥協させている点も数多くある。高齢者の福祉先進国であるカナダのSt. Lawrence Collegeで得たもの

は私自身の教育の姿勢に大きな影響を与え、参加した学生にも介護におけるひとつの確固とした姿勢を与えたようである。カナダでともに学んだ卒業生からの「努力の結果、入所者の排泄の自立度がずいぶん高くなった」「図書館にもっと activity 関連の文献をそろえてほしい」という声こそが、今回の研修旅行の重みのある成果であろう。

謝辞・私たちの老人学セミナーを意義深いものにしてくださったキングストン市長、Mr. Gary H. Bennett、ならびに St. Lawrence College 学長、Mr. Charlie Labarge に深く感謝するとともに、研修中お世話になりました多くの St. Lawrence College のスタッフの方々にこの場を借りて御礼申し上げます。また本稿をまとめるにあたり、多くの情報を提供してくださいました同カレッジ教授の Mrs. Susan Chamberlain ならびに、Extendicare Kingston の Registered Nurse、Mrs. Mariko Farevaag に深謝いたします。

## 文 献

- 1) 馬場禮子、岡堂哲雄、滝口俊子、他 (1990). 臨床心理学体系 第4巻 家族と社会金子書房 p.180
- 2) Zhou, N., Sparkman, R. & Follows, S (1990) Geographic culture, regional advertising, and the myth of the nine nations of North America: A content analysis of Canadian and U.S. magazine advertisements. In *The Proceedings of the Third Symposium on Cross-cultural Consumer and Business Studies* (eds.) Synodinos, N.E., Keown, C.F., Becker, T.H., Grunert, T.G., Muller, T.E. & Yu, J.H., pp1-6, Honolulu: university of Hawaii.
- 3) Butler, R.N. (1977) "Age-ism: Another Form of Bigotry." In *Readings in Aging and Death: Contemporary Perspectives*, ed. S.H. Zarit. New York: Harper & Row.
- 4) National Advisory Council on Aging (1995) "The NACA Position on the Image of Aging" In *Readings in Aging & Society: A Canadian Reader*, ed. Mark Novak. Ontario: Nelson Canada, pp3-18
- 5) M. Carol Bowlby, 竹内孝仁 (1999) 痴呆性老人のユースフル・アクティビティ 三輪書店 p.39
- 6) アクティビティ・サービス研究協議会編 (2000) アクティビティ・サービス総論—福祉におけるレクリエーションの前進—。中央法規出版
- 7) 常盤恵子, 仁木久江, 助川尚子, 他 編(1992) 看護英和辞典 医学書院 p.549
- 8) Nancy Hooyman, H. Asuman Kiyak (1999) *Social Gerontology A Multidisciplinary Perspective*. Boston: Allyn and Bacon, p.2
- 9) 平成12年度全国大学一覧 (2000) 文教協会発行
- 10) 平成12年度全国短期大学・高等専門学校一覧 (2000) 文教協会発行
- 11) St. Lawrence College Saint-Laurent (1998) Program Manual Social Service Worker-Gerontology, pp.1-2
- 12) Mickey Stanley., Patricia Gauntlett Beare (1999) *Gerontological Nursing A Health Promotion/Protection Approach* Philadelphia: F.A. Davis, pp.102-104
- 13) St. Lawrence College An education and a career for the 21st Century 2000-01 Full-time Studies (\*およそ150ページからなる大学案内・1999/2000年度用) p.88
- 14) 宗像恒次 (1998) 燃えつき現象研究の今日的意義 看護研究 21(2), 122-131
- 15) 12) と同じ
- 16) 10) と同じ
- 17) C.M. Hamill, R.C. Oliver (1983) 老人障害者のためのアクティビティ 手作り工芸:治療への活用 協同医書出版社 p.3
- 18) 10) と同じ pp.25-26

**A Comparative Study on the Social Service  
Worker–Gerontology Program in Canada and  
the Kaigofukushishi Training Program in Japan  
— Learning through the Gerontology Seminar in Ontario —**

Junko NAKANE\*, Atsuko TANAKA\*\*

The first paragraph of this paper introduces the Gerontology Seminar at St. Lawrence College, Kingston, Canada that was held in March 2000. The participants of this seminar were the students who were majored in Certified Care Worker program at Nagoya Ryujo College. As a milestone in the history of Ryujo College, we include the schedule of the seminar, the messages of the Mayor of Kingston and the presidents of both colleges and the summaries of lectures given on March 5.

The second paragraph is focused on the differences between the education system of Social Service Worker–Gerontology in Canada and Certified Care Worker in Japan.

Followings are the points we have been aware of:

1. Medical knowledge, interpersonal skill and in-depth learning on current topics related to aging would not be sufficient in Japanese education system.
2. Activity Service would need to be specialized in the field of Certified Care Worker in the future in Japan.
3. In order to respect student's independence, fundamental improvement would be necessary in the practice of placement for Certified Care Workers in Japan.

**Key Words:** *gerontology, social service worker, certified care worker, training program*